

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	18 / 1972 / 16-17
タイトル	研究発表を見て
著者名	溝江祐子

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

## 研究発表を見て

1年 溝江 裕子

10月22日、青森県児童生徒研究発表が開かれた。今年の会場は中央高校である。発表は9時からだが、受け付けは9時30分までなので私たちは9時15分まで中央高校の校門前に集まることにした。その日は風が強く雨がザーザー降っていた。9時5分私は待ち合わせの場所についた。まだだれも来ていなかったので雨の中傘をさして待っていた。9時15分朝久君がやってきた。続いて田中先輩、25分ころ清美君がやってきた。ところが達郎君は27分、28分となってもやってこない。発表の時使う道具のほとんどは達郎君が持っているのだ。29分、30分……あっ、やっとやって来た。ぎりぎりいっぱいセーフ(受け付けに)。みんなそろったところで開会式会場へ、式場は会議室で、式は審査員の紹介と県教育委員長のあいさつというわりに簡単なものだった。開会式も終り発表が始まった。生物部門の発表会場は開会式を行った会議室で、弘前中央高校から6つ、三戸高校、黒石高校そして我青森高校からそれぞれ一つの計9つの発表が行なわれた。私たちのテーマは例年通り「ミジンコの日周活動について」だが、今年は去年とは違い自分たちなりの結論はだしているし、ここ14年間のまとめという形で出したので内容にはいくらか自信があった。しかしグラフや図、要項などは短時間で作ったものなので、けっして満足できないでよかった。次から次へと発表が終り、とう私たちの番が来た。発表したのは田中先輩で即席のグラフや図を前にさっそうと話し出した。みんなの目が発表者に注がれる。会場はしーんとなり、発表者、田中先輩の声だけが部屋中に響いている。みんな感心して聞いているようだ。発表が終り審査員の杉山先生がご批評された。「今の発表でよくわかったという人はいますか。」「……………」。「今のような発表では専門家はわかるでしょうが、素人にはわかりませんね。今度発表する時にはもっとわかりやすく素人もなるほどとうなずけるような発表法を研究してきて下さい。大へん残念ですね」この言葉を聞いて私はがっくり、今まで感心して聞いていたものとばかり思っていたのが、実は何もわかっていなかったのだとは。これできのう、いや今日までの苦勞も……………。

私たちが、この研究発表の準備を始めたのは大会一週間前である。一週間前私たちは「さあ、もうそろそろやらないとまにあわないぞ」という声とともに、去年から今年にかけてやった実験のデータをまとめ、原稿を書き出した。4日前、これでは不十分だということで追加実験を行なう。やったのはいいのだがそのため遅くまで残り、次の日から電源を切られてしまった。さあ大へん、あと3日しかないのにまだ何もできていない。そのうえ電気がつかないなんて。それからの3日間私たちは家に仕事を持っていったり、田中先輩の家に集ったりしてけん命にがんばった。前日の午後9時ごろようやくリ切りを終え、12時までかかって印刷、当日午前3時ようやく準備完了。

発表も終り、表彰式が行なわれた。もうがっくりきていた私には発表を聞く気はまったくない。ただ眠いだけである。ところがなんと意外なことに、一位として我校が上げられた。私たちが優勝したのである。帰りは大きな賞状とたて、賞品のボールペンを手に、私はうれしくて空をも飛び

たい気持ちである。今までいかにも眠むそうにしていた男子諸君の顔も今にもほころびそうだった。この研究発表にあたって①一週間、確かに大へんだったが、私の得たものは大きいような気がする。多人数で実験し、まとめ、発表する。たしかに大へんなことである。しかし大へんなだけやり終えたあとの喜びは大きい。今度私は二度とこのような気持ちはあじわえないかもしれないが、今回の経験を無駄にはしたくないと思う。

#### 昭和47年度青森県生徒理科研究発表大会

1位	ミジンコの日周活動について	青森高校
2位	ハツカネズミの骨格形成	弘前中央高校
3位	ハツカネズミにおよぼすカドミウムの影響	弘前中央高校
	土壌動物の生態調査	黒石高校
	空気中の落下菌について	弘前中央高校
	手洗いの状況と細菌群の変動について	弘前中央高校
	アオミドロの運動について	弘前中央高校
	ペーパークロマトグラフィーによる色素分離	弘前中央高校
	城山公園における果箱利用	三沢高校